

感染等危機対策マニュアル

特定非営利活動法人サポートロコペリ
通所支援事業所フレンドロコペリ

平成29年9月1日

このマニュアルで「感染症」とは、ノロウイルス感染症やインフルエンザ、麻疹、腸管出血性大腸菌感染所、流行性耳下腺炎等、他に SARS や西ナイル熱、新型インフルエンザ等の未知の新興感染症や再び感染が拡大しつつある結核等の感染症で、集団感染した場合、健康被害のほかに社会的経済的にも被害が大きいものをいいます。通所支援事業所フレンドロコペリ（以下、ロコペリという。）において、感染予防対策を図り、対処を行っていきます。ここに日常における留意点と発生時の対策を骨格としたマニュアルを提示します。

1. 日常における留意点

① 感染症種類等の把握

都道府県等の「感染症情報センター」や地元の保健所のホームページ等で確認

② 情報の収集

ロコペリでは市内や県内、国内などで、どんな感染症が、どの地域で、どのように発生しているか等の情報を収集し、ロコペリの職員や利用者の保護者へプリントやメール等で情報を提供する。

③ 危機管理体制の確立

- 1 在籍利用者の住所、氏名、生年月日、性別、緊急連絡先など利用者台帳の整理を常に行う。特に緊急連絡先が携帯電話の場合は、頻繁に保護者から確認する。職員の連絡先や出入り業者も同様に確認する。
- 2 職員が感染した場合を想定して、勤務体制の変更などを事前に調整しておく。
- 3 日頃から協力医療機関と連携をとる。
- 4 発症者数・年齢・主な症状などを把握する ～ 管理者・各スタッフ
症状の特徴をふまえて対策を立てる ～ 各スタッフ
一時的に隔離する部屋の確保、維持管理 ～ 管理者・各スタッフ
外部との対応 ～ 管理者・各スタッフ

2. 発生時の対策

① 発症者の早期発見と把握

- 1 学校・自宅等への迎えの際に情報の収集を行う。（精神面・身体面・自宅、学校での様子を含めて）
- 2 利用時に、顔色・熱感・冷感・咳・鼻水・便（色、臭い）・嘔吐・倦怠感等の症状に注意していく。

※ 手洗い方法

嘔吐物の処理、消毒液の使用方法（消毒液の保管場所、台所シンク下の棚）
（実施方法P3～4に添付）

② 感染拡大防止

- 1 発症者に対しては、医療機関への受診や帰宅をすすめ、施設内では、一時隔離等を行う。

- 2 発症者には手洗いの徹底やマスクの着用をさせる。
- 3 発症者の動線を調べ、嘔吐物がないか確認する。あった場合はその場所の洗浄・消毒と嘔吐物の適切な排除と廃棄をする。
- 4 発症者の利用したトイレ・ドアノブ・スイッチ・支援物・車の消毒を行う。
- 5 発症者以外の利用者やスタッフの健康状態確認

③ 施設の一時閉鎖等

- 1 施設内の調査により他利用者に重大な感染の恐れがあると判断された場合には、施設内の一時閉鎖等を行う。
- 2 発症者が各支援室に分散するなどがみられた場合は、各発症者間で共通した接点がないかを調査する。必要に応じて発症者を他の部屋に移動する処置を行う。
- 3 予定されている各種行事等は見直しを行い、中止を含めた検討をする。

④ 情報提供と措置

- 1 発症者の状況等を保健所や行政機関へ情報提供する。
- 2 施設内で発生しているのか、複数の通所支援施設で発生しているのか等の情報を収集し、感染拡大防止策等の適切な措置をする。(学校等からの情報収集)

⑤ 再発防止

- 1 施設で発生した経緯、疾病名、対応等を取りまとめ、原因がどこにあったのかを総括し、今後の対策へ役立て、再発防止を図る。

1. 利用者及び処理者以外は退避

吐瀉物（嘔吐）に**近づくだけで**、空中を浮遊するウイルスを吸い込んで感染する恐れがあります。

冬季に吐物や下痢便を発見した場合、できる限り子どもや高齢者の方を遠ざけて、ある程度抵抗力のある大人の方が処理を行ってください。

2. ウイルスの拡散を防ぐ

ペーパータオル、ボロ布などを、嘔吐物に覆い被せて、ウイルスの拡散を防ぎます。

3. マスクと手袋とエプロン

衣服や手に吐瀉物が付着すると、そこから感染する恐れがあります。

また、浮遊するウイルスを吸い込む恐れがありますので必ず使い捨てのマスクと、なるべく丈夫なビニール手袋を着用してください。

使用したものは必ず捨ててください。

5. 消毒剤を作る

キッチンハイター等の市販の塩素系漂白剤で、ノロウイルス用の消毒剤を作れます。

分量は、下記参照。 ※ペットボトルをあらかじめ用意しておく

床用（約0.02%次亜塩素酸Na）	汚物用（約0.1%次亜塩素酸Na）
ハイター 2ml ペットボトルキャップ 半分弱	ハイター 10ml ペットボトルキャップ 2杯分
水 500ml	水 500ml
ハイターをペットボトルの キャップに半分弱入れる ↓ 水をボトルいっぱい入れる	ハイターをペットボトルの キャップ2杯分入れる ↓ 水をボトルいっぱい入れる
	

施設常備の消毒剤（電気分解水）使用時は原液で振りかけてください。

6. すばやく静かにふき取る

ペーパータオルやボロ布を外側から内側に向けて素早く静かに拭き取ります。

このとき、布の同じ面を何度も使ってふき取ると、床にウイルスをこすり付けて、汚染を広げることになりますので、折りたたみながらふき取ってください。

※注意 処理に時間をかけると吐瀉物が乾燥して、ウイルスが飛散する恐れがありますので、処理は、素早く行ってください。

7. 床を消毒

おう吐物が付着していた床とその周囲を新聞紙・ペーパータオル等でおおい、【5】で作った「床用消毒剤」「パリアブロックプロ原液」を染みこませます。

10分後に床を水拭きします。

8. 使ったものはビニールに入れて捨てる

使用したペーパータオル等、マスク、手袋、エプロンは全て廃棄します。

ポリ袋に入れて、【5】で作った「汚物消毒用消毒剤」を浸る程度入れます。
ポリ袋は2重にして、口をしっかりと縛ります

※着衣を廃棄できない場合は、ポリ袋に入れて汚物を十分落として塩素系漂白剤か熱湯で消毒して下さい。

しっかり手洗い



手袋をはずした後は、石けんを十分泡立てよくあらい、温水でしっかりすすいでください。

石けん自体はノロウイルスを直接失活化する効果はありませんが、手の脂肪などの汚れを落とすことにより、ウイルスを手指からはがれやすくする効果があります。